

電子複写不可



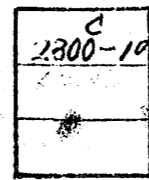
研修旅行参考資料

沖繩作戰梗概

昭和36年6月

防衛研修所

防衛研修所
戦史



3
4
5
6
7
8
9
60
1
2
3
4
5
6
7
8
9
60
1
2
3
4
5
6
7
8
9
70
1
2
3
4

研修旅行参考資料

沖繩作戦梗概

昭和36年6月

防衛研修所

まえがき

本資料は沖縄研修旅行の参考とするものである。

史実の究明未だ不十分で将来訂正する箇所あるも取敢えず配布する。

沖 縄 作 戦 概 史

まえがき

目 次

第1章 兵要地誌	1
第1節 一般地誌	1
第2節 歴史及風俗	13
第3節 軍事的価値	23
第4節 沖縄本島	29
第2章 南西諸島戦備強化の経緯	41
第1節 開戦直前頃より昭和19年初頭頃までの状況	41
第2節 第32軍の創設	41
第3章 第32軍の作戦準備	43
第1節 10号作戦準備	43
第2節 捷号作戦準備	51
第3節 比島作戦(捷1号作戦)	57
第4節 第32軍より9Dの抽出	59
第5節 大本營の新作戦方針と第32軍の配備	60

才1章 兵要地誌

才1節 一般地誌

1 地勢の大要 (付図才1)

南西諸島は九州の南端から台湾の東北端にわたるおよそ1,300
軒の洋上に跳石的に孤状をなして点在する諸島である。

沖縄列島の外側には平均深度6,000米に及ぶ沖縄海溝が横
たわつている。

これらの諸島をは大隈諸島，吐噶喇（とから）諸島，奄美
（又は大島）諸島，沖縄諸島，先島（宮古及び八重山を総称）
諸島，尖閣諸島，大東諸島の7つに大別される。（挿図才1）

2 地質及び地形

琉球諸島は地体構造の上から琉球孤と称し亞細亞大陸の大陸
棚の東縁に横たわっており，地質構成は三列の帯をなし三重の
同心的円弧を描いて北東から南西に延びている。

これ等3帯の地層の周辺には隆起さんご礁が著しく発達し，
地下の諸所には自然洞窟がある。

(1) 太平洋に面し，種子島，喜界ガ島，沖縄島の南西部，宮古
島を経て西表島の大部を形成するもので才3紀泥炭岩，砂岩
及び才4紀層よりなり，一般に丘陵地であり，西表島には石
炭を産出する。（才3紀泥炭岩は方言で「クチャ」といい，

ジャーガル土壌の母岩であつて才3紀石灰質砂岩は方言を「ニール」と称し「ウジマ」の母岩である。俗に「ニール」の骨と称するものは硬質砂岩である)

(2) 中帯

主軸をなす中帯は古成層からなり屋久島，奄美大島，徳之島，沖永良部島，与論島を経て沖繩島北部の山岳地帯となり，更に慶良間列島より石垣島，竹富島，嘉弥真島，小浜島を経て西表島の東北端に至り更に台湾に続くもので本群島の脊梁をなす。この地帯は地形峻嶒で山岳が多く，粘板岩，砂岩，輝石岩，角閃岩，石灰岩，緻密桂岩等により諸所に 岩，花崗岩等の旧火山岩が露出している。銅鉱を産する所もある。

(3) 内帯

東支那海に面する内帯は火山島で霧島岳，開聞岳等の火山の延長で土蔵嶺島，鳥島，伊平屋島，粟国島，久米島を経て尖箇列島に至り台湾の大屯火山脈に連っている。岩石は主として輝石安山岩等の新噴出岩である。中には現に噴煙しているものもある。(口之永良部島，硫黄島，諏訪瀬島，鳥島)

3 行政区分，人口，面積 (41, 371, 450)

南西諸島は行政上鹿児島県及び沖縄県に2分せられる。

鹿児島県は与論島を含む以北であつて大島郡に属し，種子島，

屋久島，奄美大島，徳之島，沖永良部島が主要な島々である。

人口約20万(昭和19年)

沖縄県は沖縄本島以南55個島で2市5郡，3町51ヶ村からなり県庁は那覇市にあつた。昭和19年末の人員は590,480人，面積は2,388.24 方料である(挿表才1)

沖縄県人の海外渡航者(移住及び出稼)は極めて多くその状況は挿表才2ようである。このことは作戦間スパイ容疑等の問題の一因をなしている。(挿表才2)

4 気象(主として台湾，南西諸島水路誌より抜す)

南西諸島は一般に高山大川に乏しく海洋性気象で，優勢な黒潮の暖流が南西諸島に沿つて北東に流れるため一般に多湿で夏季になると南西部は特に蒸し暑い。

那覇における1月及び2月の平均気温は約16度，最低約5度であるので雪は種子島と屋久島にまれにあるほか霜雪もなく四時樹木が繁茂している。

雨期は5月中旬から6月中旬である。

那覇における気象状況は挿表才3のようである。

(1) 天気

11月から4月頃まで曇天か雨天が多く7月から9月までは天気のよい日が多い。

冬気諸島付近が大陸高気圧の東縁になるとその縁辺付近は、帯に天気が悪くなり、ことに外縁の東側か南側に前線が停滞する場合には諸島付近も連日風雨か霧のため視界が狭くなる。霧は諸島北部においては冬季は全く発生せず冬季以外でもほとんどない。中部と南部とでは春季が1年中の最多発生期ではあるがこれとて少い。しかし南大東島と沖大東島とでは割合に多く前者は6月後者は9月が1年中最多の月で2日の発生を見る。

(2) 気節風

気節風は顕著で9月末頃から大陸に高気圧が発達すると北-北東の風が吹き始め、11月から2月までの間に長く吹き続き、風力も強く5~6または7以上のこともある。

5月から8月までは大陸に低圧部があり、北太平洋高気圧はしだいに西方に張り出して諸島の東方洋上に迫るから東ないし南の風が強く吹く。

3月4月及び9月は気節風の交代期に当るので風力が弱く風向不定の場合が多い。

(3) 低気圧

南西諸島付近は冬季には温帯低気圧、夏季には台風の去来がひん繁で年1~2回猛烈な暴風に見舞われる。

○ 温帯低気圧

冬季から春季にかけて南支那か東支那海上に発生し進路を東北東へとり多くは東支那海で勢力を増し、諸島に沿って北東進するか、または東進して諸島を横ぎり、九州及び本州方面へ向う。その進路の大部は諸島の北半部であるから南半部では南より風が吹き、風力も中心付近以外ではさ程強くない。東支那海に発生するものを台湾坊主という。

○ 台風 (挿表才4参照)

7月から10月までは台風がひん繁に來襲する。夏季の台風は南洋方面に発生して西-北西へ進み諸島付近で北-北東へ転向するものが最も多い。

しかし諸島を南西から北西へ横ぎるもの、南西から諸島に沿って北東進するもの、北-北西にへ進み諸島に近づき付近の洋上に滞留して後北東-北へ転向するものなどがあつて一定しない。

台風は温帯低気圧に比べるとその範囲も一般に小さいが中心付近は風雨が猛烈である。

5 潮汐, 潮流

(1) 潮汐

南西諸島における潮汐は、全区域にわたつてほぼ同様である。

平均高潮間隔は6時12分～7時32分、大潮升は1.6～2.1mでだいたい北部が大きく南へ行くにしたがつて減少する。一般に潮汐の性質として太陰が赤道付近にあるときすなわち、春秋には朔望のころ、夏、冬には両弦のころ日潮不等は著しくなく、1日2回のはほぼ規則正しい高低を示すが、太陰が赤道を隔てるにしたがつて、しだいに不等を増し最北または最南にあるころ、すなわち、春秋には両弦のころ夏、冬には朔望のころに日潮不等が最も著しい。しかし、この地方には著しい日潮不等は起らなく1日1回潮となることはまれである。

相次ぐ2高潮の高さの差が0.3m以上に達することはまれであるが、相次ぐ2低潮の差は0.9mに達することがありそして高い高潮の次に低い低潮になる。またこの低い低潮は常に春季は午後、夏季は昼間、秋季は午前、冬季は夜間に起る。

平均水面は、2月が最低、7月が最高で、その差は約0.4mである。

那覇港潮汐曲線及び20年3.4.5月の潮汐表は挿表⁵のようである。各地ともほぼこれと同じである。

(2) 海流

南西諸島の付近は全部が黒潮の流域になつている。黒潮本流は南西諸島の大部分にわたつてその北西側を流れている。

夏季南西諸島の北西側では黒潮本流の北西の境が東支那海の250m等深線とだいたい一致しその流れの中は90～110Kmで流向は南西諸島の島列とほぼ並行してゐる。流帯の中軸の流速は2～3Kt（ノット）で北の境と南の境とでは1Kt内外である。台湾、大隈海峡間黒潮本流夏季概況は挿図²のようである。

冬季南西諸島の北西側における海流は夏季と大差ないが大隈海峡付近では、夏季に比べて流勢が強いようである。

台湾、大隈海峡間黒潮本流夏季概況挿図²

終 現 三 し 歩
す 嶋 め 右

防管の着の身置を以てして、且、小兵力を以て

挿図第1

挿図第1

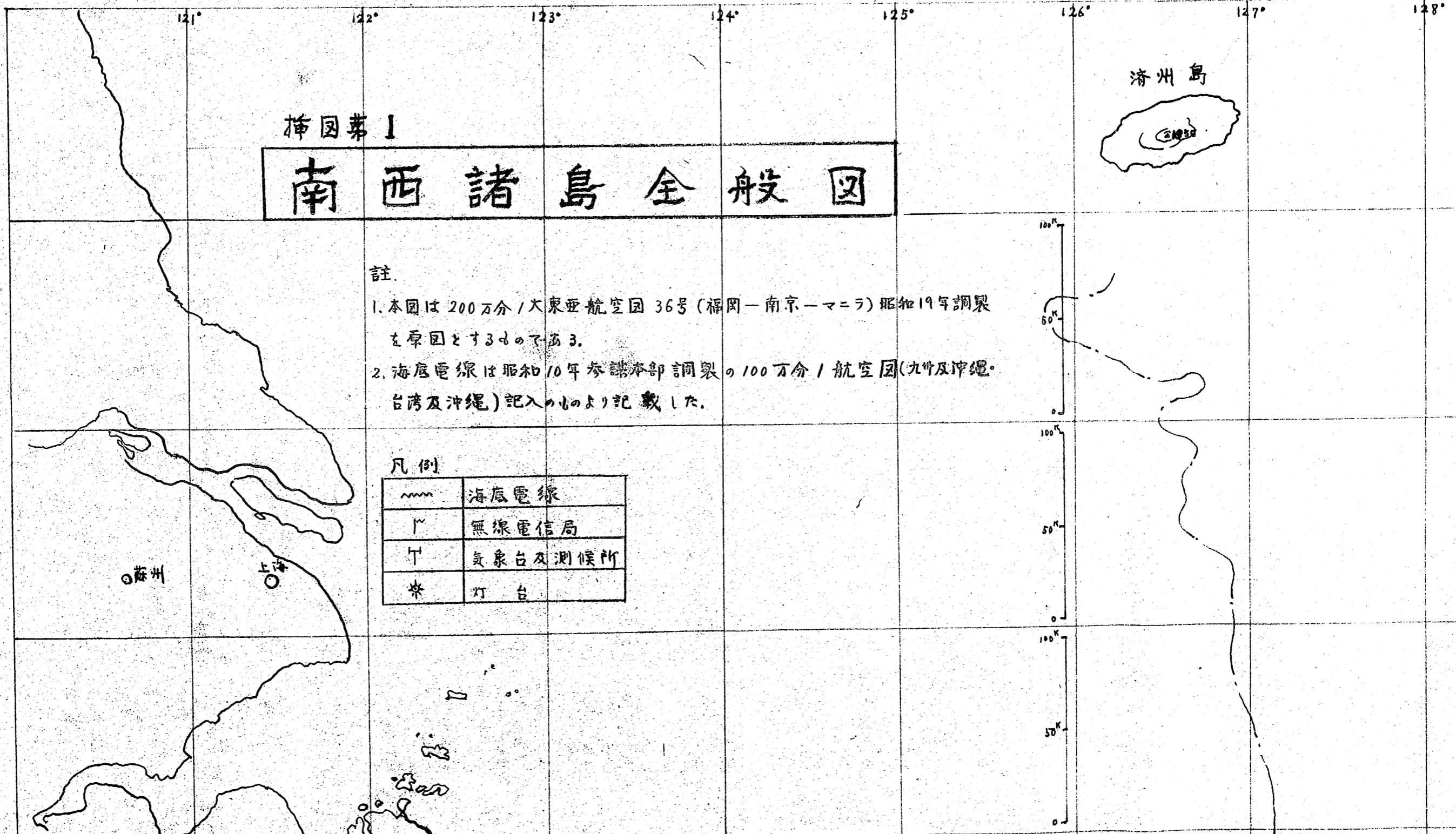
南西諸島全般図

註

1. 本図は 200 万分 / 大東亜航空図 36号 (福岡—南京—マニラ) 昭和19年調製を原図とするものである。
2. 海底電線は昭和10年参謀本部調製の 100 万分 / 航空図 (九州及沖縄・台湾及沖縄) 記入のものより記載した。

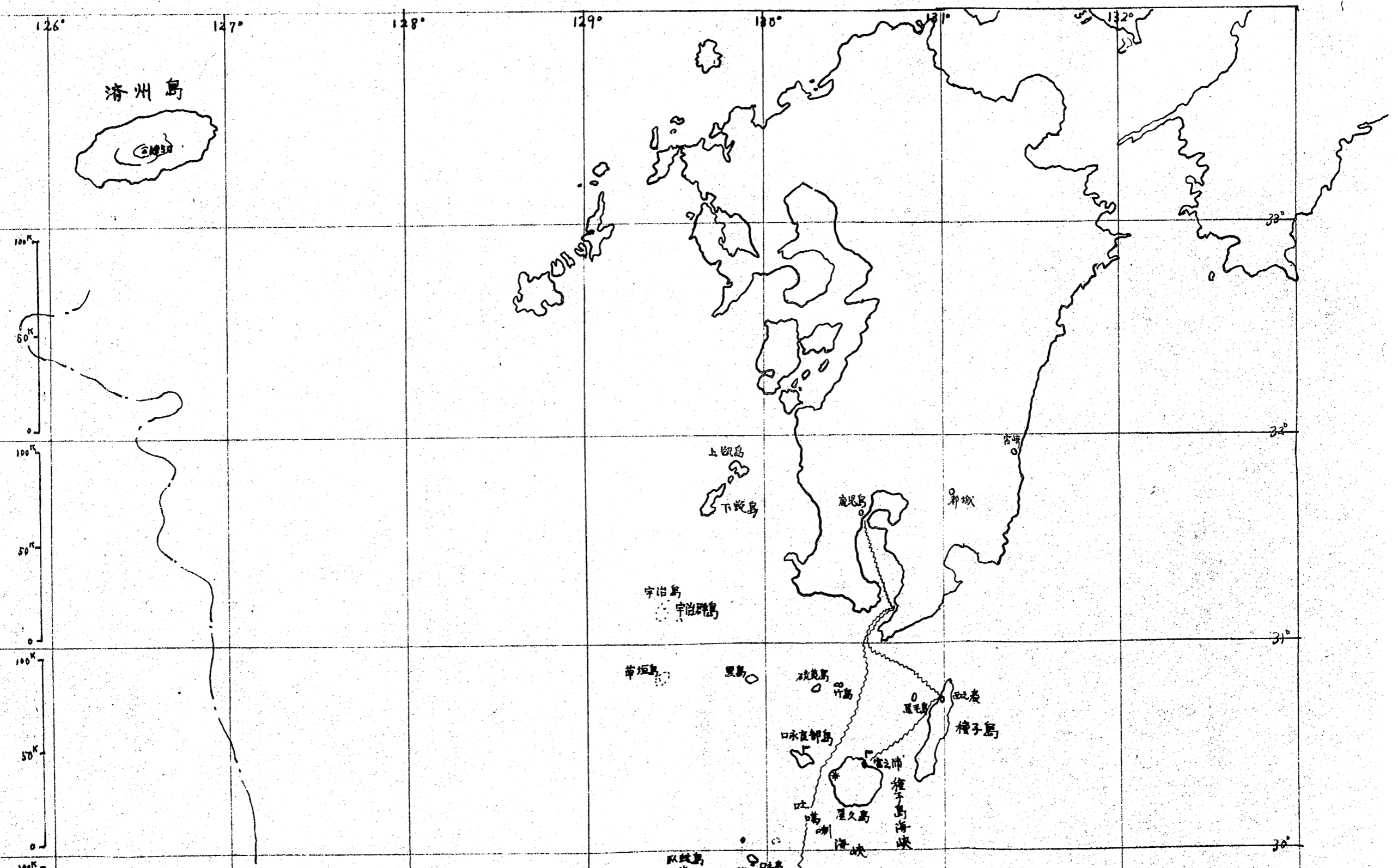
凡例

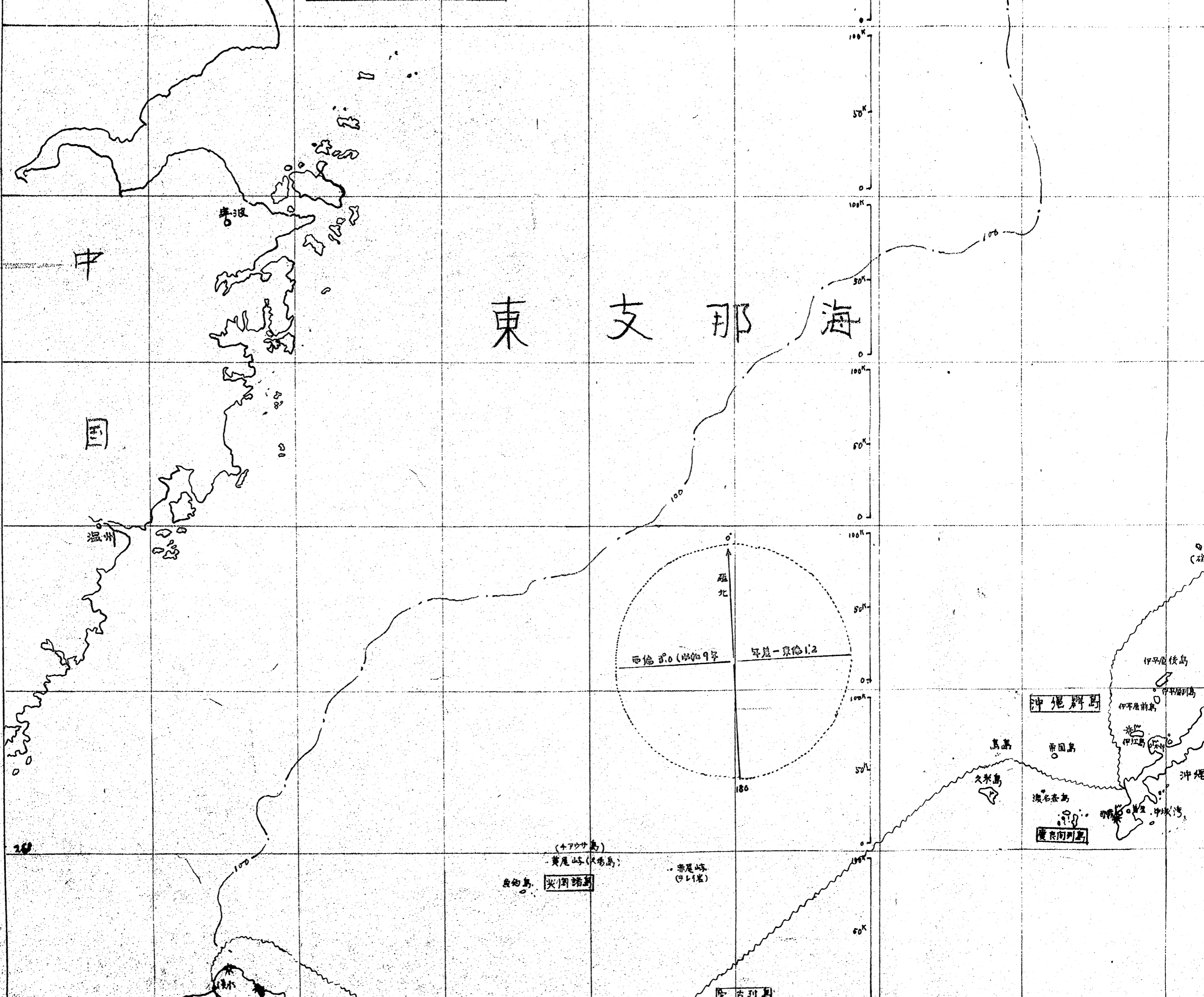
~~~~~	海底電線
┌	無線電信局
└	气象台及測候所
※	灯台



図

マニラ) 昭和19年調査  
航空図(九州及沖縄)





東支那海

中

國

海峽

陸古列島

(+77°44′)  
黃尾嶼 (大場島)  
赤尾嶼 (921米)  
白灼島 尖閣諸島

沖繩群島

慶良間列島

高島

久米島

南國島

瀨名森島

伊平屋後島

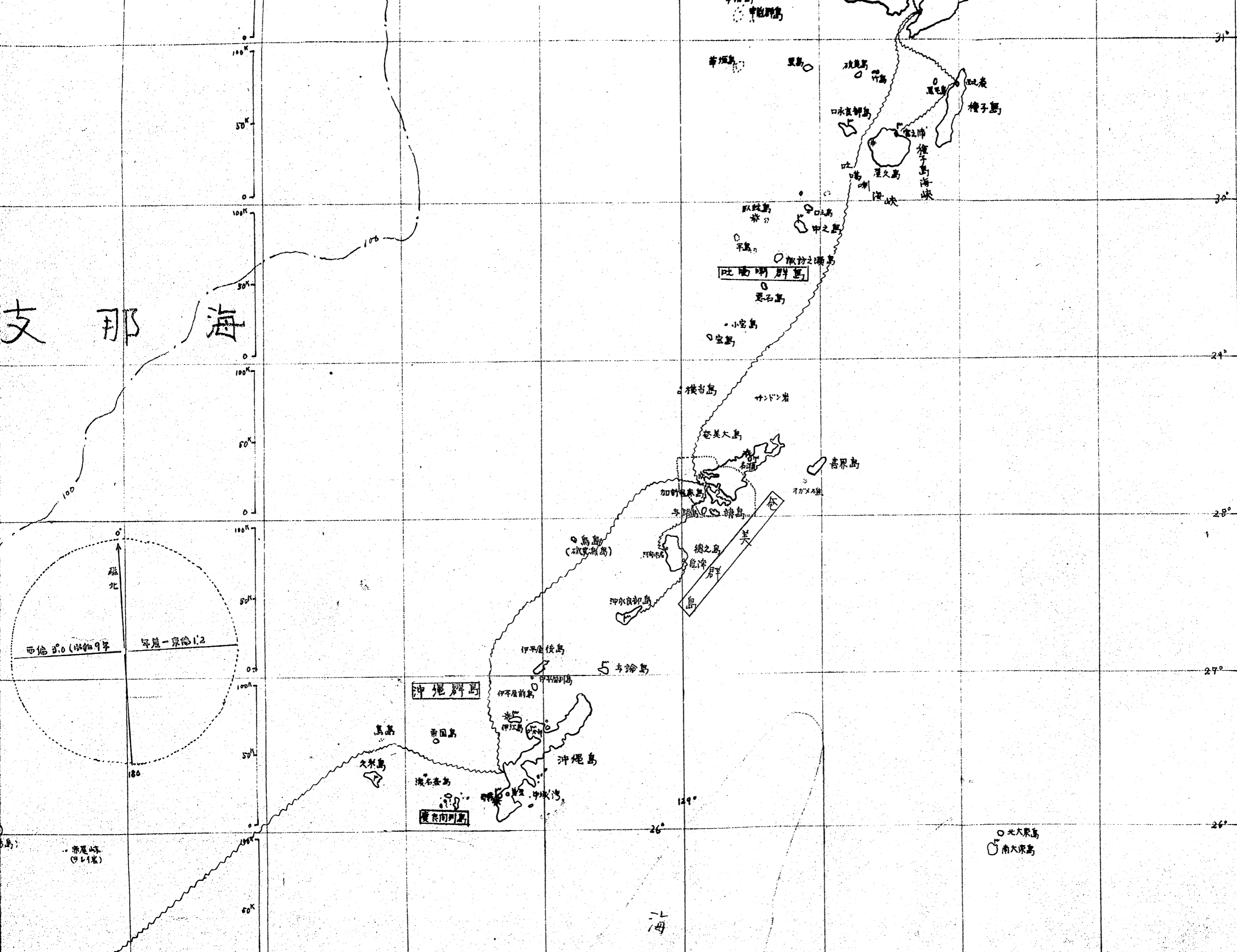
伊平屋前島

光島 (伊江島)

沖繩

中城灣

# 支那海

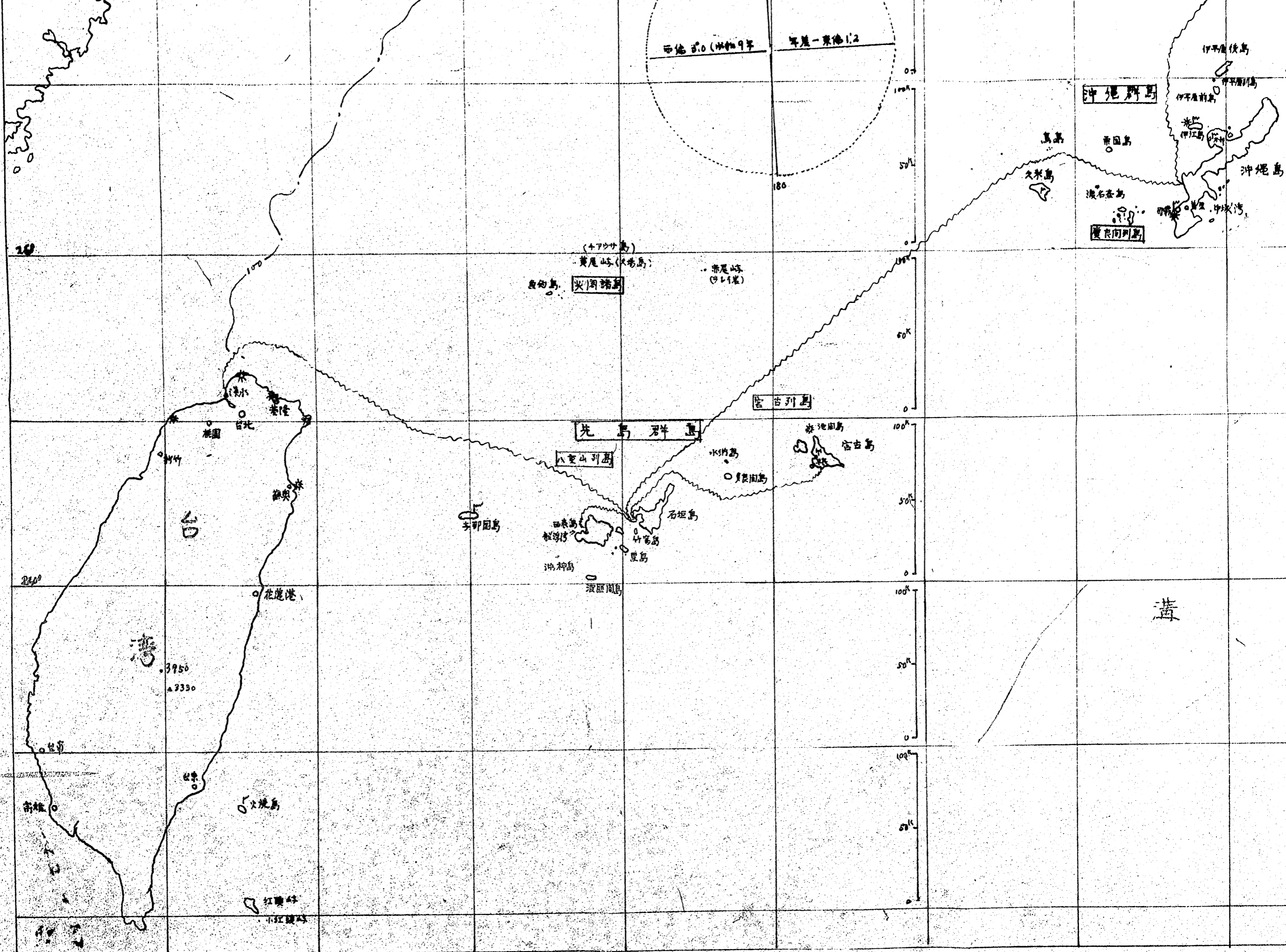


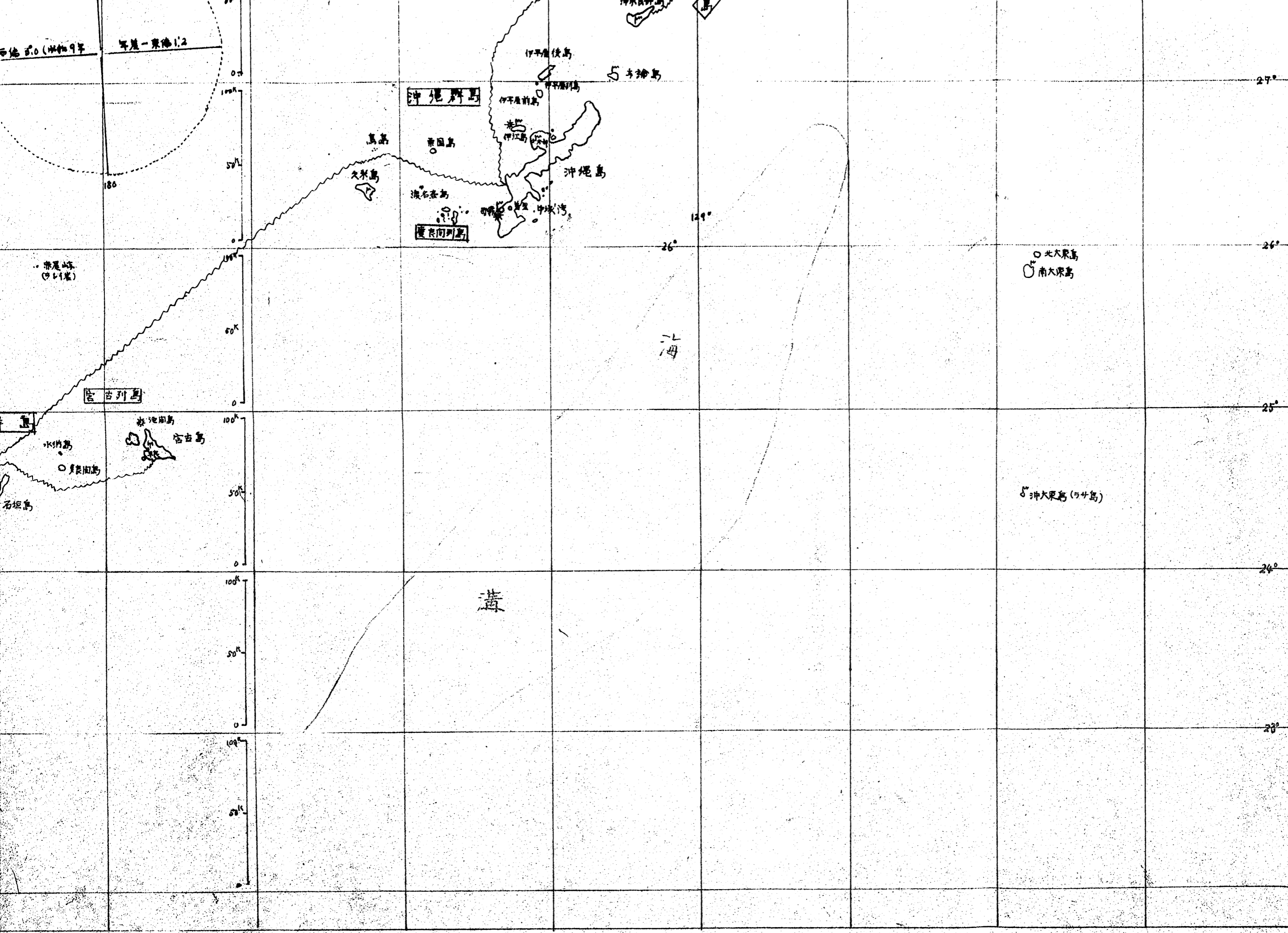
西偏 3°.0 (昭和9年) 年差 - 東偏 1.2

磁北

海

○北大原島  
○南大原島





西经 130.0 (1949年) 年差 - 东经 1.2

冲绳群島

伊平屋後島

5 丰後島

真島

赤国島

伊平屋前島

冲绳島

久米島

渡名喜島

伊江島

中城島

慶良間列島

海

溝

北大東島  
南大東島

沖大東島 (5 竹島)

宮古列島

赤尾崎 (241 米)

水内島

伊良部島

赤池島

宮古島

石垣島

100M  
50M  
0  
100M  
50M  
0  
100M  
50M  
0  
100M  
50M  
0

27°  
26°  
25°  
24°  
23°

129°

26°

押原芳一

沖縄県人口状況

(沖縄群島政府統計課調)

1. 昭和12年~21年の状況

(沖縄本島より)

注: ( ) は沖縄本島(含各島)其の他は沖縄県

昭和	西暦	戸数	総人口	男	女	密度 ¹ 1km ²	調査 年月日
		(104,623)	(493,501)	(234,089)	(259,412)	(328.85)	
12	1937	120,830	597,902	285,605	312,297	250.35	4月1日
16	1941	117,950	571,200	269,000	302,200	237.17	推計
			(492,128)	(239,786)	(252,342)		
19	1944	124,001	590,480	265,525	324,955	247.24	12月31日
20	1945	68,571	326,625	125,126	191,499	217.65	.
21	1946	112,091	509,517	232,455	277,062	337.52	"

2. 昭和19年、20年の年齢階級性別人口(含宮古、八重山)

年齢階級 年令	性別	総数		男		女	
		19年	20年	19年	20年	19年	20年
		19年	20年	590,480	326,625	265,525	135,126
1~4	1~5	55,493	36,879	28,084	18,398	27,409	18,481
5~9	6~10	81,990	50,480	41,611	25,089	40,379	25,391
10~14	11~15	79,255	48,503	39,981	23,988	39,274	24,515
15~19	16~20	64,910	33,350	32,563	14,845	32,347	18,505
20~24	21~25	37,055	16,424	12,833	2,835	24,222	13,589
25~29	26~30	29,927	15,857	9,691	3,545	20,236	12,312
30~34	31~35	29,579	14,861	11,466	4,149	18,113	10,712
35~39	36~40	29,320	13,974	11,861	3,983	17,459	9,991
40~44	41~45	29,845	13,667	12,738	3,904	17,107	9,763
45~49	46~50	27,718	16,261	12,276	6,576	15,442	9,685
50~54	51~55	28,625	16,246	12,861	6,829	15,764	9,417
55~59	56~60	24,036	14,431	10,556	6,170	13,480	8,261
60~64	61~65	22,242	12,813	9,783	5,519	12,459	7,294
65以上		50,485		19,226	4,370	11,259	

神表第2

戦前海外渡航者数

国 別	沖繩大観 (昭和28年発行)	琉球要覧 (1660年発行)	備 考
南洋諸島	14,313		①沖繩大観の統計 は明治23年～ 昭和13年まで
ハワイ諸島	13,608	20,118	
ブラジル	11,131	14,829	
ペル	8,100	11,311	②琉球要覧の統計 は明治32年～ 昭和13年まで
フィリピン	7,308	16,426	
北米	751	803	
アルゼンチン	2,522	2,754	(3)前者の年間か 9年要いか 総数は少い
シンガポール	737	2,751	
メキシコ	257	764	
カナダ	190	403	
仏領ニューカレドニア	113		
ホルネオ	88	435	
セレベス	70	334	
バタビア	56	(5+7) 270	
フランス	53	0	
キューバ	33	113	
中 国	21	0	
スマトラ	15	81	
チリ	11	1	
台湾	3,238	ホリビア 37	
滿洲	161	ピナン 15	
朝鮮	75	大津島 322	
樺太	25	ニューカレドニア 921	
其 他	116	本曜島 5	
		フィリ 19	
合 計	63,003	72,745	



梅表茅3

気象(那覇)

註: 中央気象台調

月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	全年	統計年
平均気温	16.1	16.0	17.7	20.7	23.1	26.1	27.9	27.7	26.6	23.9	20.8	17.7	22.0	1891-1900
最高気温	26.4	27.1	27.7	30.6	32.5	34.3	35.5	34.9	33.7	33.0	31.6	28.0	35.5	●
最低 "	6.1	4.9	6.0	8.7	11.0	14.8	20.8	21.5	17.0	14.8	8.6	6.8	4.9	●
平均湿度	74.6	75.3	76.8	80.4	83.4	85.8	82.4	83.1	81.9	77.7	75.2	73.2	79.1	●
湿度の最大	37	37	37	34	34	43	46	47	39	39	37	34	34	●
降水総量	139.8	130.0	161.1	157.0	253.5	269.0	188.5	265.5	182.9	164.6	124.4	105.2	212.9	●
降水最大量	149.2	88.2	197.9	351.8	206.1	209.0	272.4	245.8	185.1	287.3	427.0	107.0	427.0	●
平均風速	4.7	4.7	4.2	3.5	3.3	3.2	3.3	3.6	3.8	4.3	4.7	4.7	4.0	1891-1936
最多風向	NE	N	NE	NE	E	S	SE	SE	SE	NE	NE	NE	NE	1909-1936
風速の最大	20.6	19.8	24.3	22.3	19.8	23.6	41.0	37.4	45.0	36.1	37.2	36.8	45.0	1891-1936
平均雲量	7.6	7.9	7.8	7.5	7.8	7.7	6.1	6.1	5.9	6.1	7.0	7.3	7.1	1891-1936
日照時数	105.7	98.5	124.5	150.6	162.3	196.4	275.9	247.4	216.7	178.0	134.6	118.1	200.7	1891-1936
快晴日数	1	1	1	1	1	1	2	2	2	3	2	1	18	●
曇天日数	17	18	19	17	18	17	9	9	9	11	14	16	17	●
10.0%以上曇日数	14	13	11	6	5	3	4	6	7	10	12	13	10	●
15.0%以上曇日数	5	4	3	1	0	0	1	2	2	3	4	4	29	1891-1940
2.1%以上降水日数	18.9	17.3	17.4	14.8	17.4	16.8	16.1	18.7	17.6	15.6	14.9	16.2	20.7	1891-1940
1.0%以上曇日数	13.4	12.1	12.7	10.7	12.3	12.4	11.3	13.4	11.9	10.4	10.3	10.7	14.6	●
500%以上曇日数	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	0	8	1891-1936
250%以上曇日数	0	0	0	1	5	23	31	31	26	8	1	0	126	1906-1936
地面温度	15.7	16.1	17.8	21.9	25.5	28.3	30.8	30.2	28.3	26.9	20.3	17.2	23.0	1891-1940
日照率	34.1	32.3	34.4	40.6	41.4	50.0	67.5	67.9	59.7	50.7	42.7	38.2	46.2	1891-1936

挿表第4

南西諸島台風接近回数表

(各島より200km以内を通過) 1926-1942 中央気象台調

	石垣島	宮古島	南大東島	沖縄本島	大島
1	—	—	—	—	—
2	—	—	1	—	—
3	—	1	1	1	—
4	—	—	1	1	—
5	2	2	2	1	1
6	2	1	—	—	2
7	9	9	9	14	6
8	8	7	9	9	8
9	6	4	9	9	9
10	1	3	3	5	6
11	1	1	2	1	1
12	—	—	—	—	—
年	29	28	37	41	33

備考註

本表は沖縄大観(昭和28年版)より抜きた

押波牙5

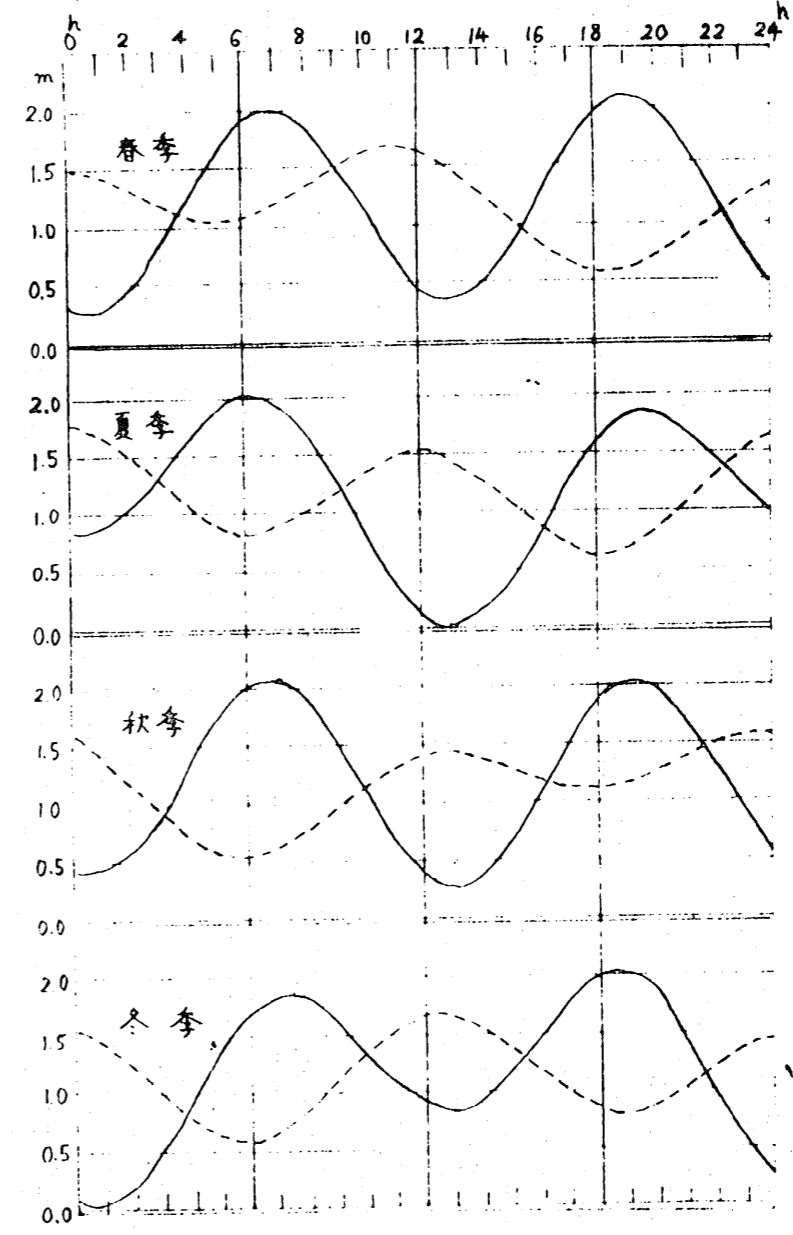
那霸港 潮汐曲线 (台湾南西諸島水路誌刊)

注: 実線は朔望、虚線は兩弦を示す。この曲线は四季の朔望  
及兩弦における平均の状態を示すもので年によつて多少異なる。

2 時刻は地方平時

3 この曲线の各季は次の時期をいう

春季—春分(3月21日頃)の前後      夏季—げし(6月22日頃)の前後  
秋季—秋分(9月23日頃)      冬季—とじ(12月22日頃)



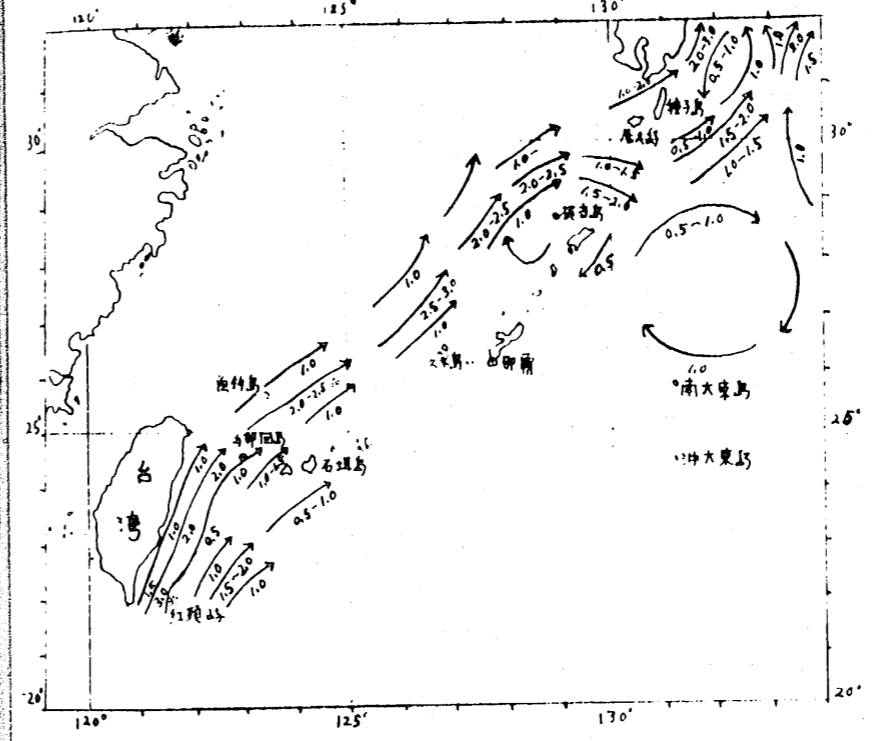
揮表第6

那霸港昭和20年3.4.5月潮汐表

(水路部発行潮汐表より抜粋)

	3月				4月				5月			
	高潮		低潮		高潮		低潮		高潮		低潮	
	時刻	潮高	時刻	潮高	時刻	潮高	時刻	潮高	時刻	潮高	時刻	潮高
1	8:55	1.8	2:35	0.1	0:10	1.8	2:50	0.4	9:00	1.8	2:55	0.5
	20:55	1.8	14:46	0.4	21:45	1.7	15:20	0.2	20:05	1.6	15:30	0.5
2	9:20		2:55	0.2	0:30	1.8	3:20	0.5	9:35	1.7	3:30	0.7
	21:20		15:10	0.4	22:15	1.6	15:50	0.2	22:50	1.5	16:10	0.1
3	10:00	1.8	3:25	0.3	1:00	1.7	3:45	0.6	10:10	1.6	4:05	0.8
	22:05	1.7	15:50	0.4	23:05	1.5	16:25	0.3	*	*	17:00	0.2
4	10:20	1.7	3:50	0.4	1:05	1.6	4:15	0.8	0:15	1.4	5:00	0.9
	22:35	1.6	16:25	0.4	*	*	17:30	0.4	11:10	1.6	18:10	0.3
5	10:55	1.7	4:25	0.6	1:20	1.4	5:20	0.9	1:20	1.4	19:00	1.0
	23:40	1.5	17:10	0.5	11:30	1.5	18:45	0.4	12:30	1.5	19:45	0.4
6	11:25	1.6	4:55	0.7	1:45	1.3	7:00	1.0	9:40	1.4	0:45	0.9
	*	*	18:10	0.5	12:30	1.4	20:30	0.4	13:50	1.4	2:10	0.4
7	00:45	1.3	5:45	0.9	3:20	1.4	9:20	1.0	3:50	1.5	10:00	0.7
	12:15	1.5	19:50	0.5	14:15	1.4	21:50	0.3	15:30	1.5	22:15	0.3
8	2:10	1.3	7:35	1.0	4:45	1.5	10:30	0.8	4:45	1.7	10:50	0.5
	13:20	1.5	21:30	0.5	16:00	1.5	22:45	0.2	16:45	1.6	23:05	0.2
9	4:05	1.3	8:50	1.0	5:15	1.6	11:20	0.6	5:20	1.3	11:35	0.2
	15:00	1.5	23:25	0.3	17:05	1.7	23:40	0.1	12:45	1.8	23:50	0.2
10	5:10	1.5	10:55	0.9	6:00	1.7	*	*	5:50	1.9	*	*
	16:20	1.6	23:20	0.2	18:00	1.9	12:10	0.4	18:30	1.9	12:15	0.0
11	6:00	1.6	11:50	0.7	6:45	1.9	14:45	1.9	6:40	2.0	0:35	0.2
	17:30	1.8	*	*	18:40	2.0	18:40	2.0	19:25	1.9	13:05	-1
12	6:40	1.8	1:10	0.0	7:10	2.0	7:10	2.0	7:10	2.0	1:15	0.3
	18:10	1.9	12:30	0.5	19:30	2.0	19:30	2.0	20:05	2.0	12:40	-2
13	7:20	1.9	0:45	-1	7:45	2.0	7:45	*	7:40	2.0	1:45	0.4
	18:55	2.0	13:00	0.4	20:20	2.0	20:20	*	20:45	1.9	14:10	-1.2
14	7:40	1.9	1:25	-1	8:20	2.0	8:20	*	8:25	2.1	2:20	0.5
	19:40	2.1	13:35	0.2	21:05	2.0	21:05	*	21:35	1.8	15:05	-2
15	8:25	2.0	2:00	-1	9:00	2.0	9:00	2.0	9:10	1.9	3:00	0.6
	20:25	2.1	14:25	0.2	21:45	1.8	21:45	1.8	22:20	1.7	15:40	-1
16	8:50	2.0	2:35	0.0	9:35	1.9	9:35	1.9	9:40	1.8	3:50	0.8
	21:05	2.0	14:55	0.1	22:40	1.7	22:40	1.7	23:15	1.6	16:30	0.1
17	9:35	1.9	3:15	0.2	10:10	1.7	10:10	1.7	10:30	1.6	4:30	0.9
	22:05	1.9	15:40	0.1	23:30	1.5	23:30	1.5	*	*	17:30	2.3
18	10:10	1.8	4:00	0.4	11:00	1.6	11:00	1.6	0:10	1.5	5:45	1.0
	22:55	1.7	16:25	0.2	*	*	*	*	11:20	1.5	18:45	0.4
19	10:45	1.7	4:35	0.6	0:40	1.4	0:40	1.4	1:40	1.4	8:15	1.0
	23:45	1.5	17:10	0.3	12:00	1.4	12:00	1.4	12:45	1.3	20:20	0.5
20	11:25	1.6	5:10	0.8	2:30	1.3	2:30	1.3	3:10	1.4	9:30	0.9
	*	*	18:30	0.4	13:15	1.3	13:15	1.3	14:25	1.3	21:25	0.6
21	10:0	1.6	6:10	1.0	4:30	1.4	4:30	1.4	4:05	1.5	10:15	0.8
	12:20	1.5	19:55	0.5	15:00	1.3	15:00	1.3	16:00	1.3	22:10	0.6
22	2:45	1.3	8:35	1.1	5:10	1.5	5:10	1.5	4:50	1.6	11:15	0.6
	13:30	1.4	21:25	0.5	16:30	1.3	16:30	1.3	17:00	1.4	23:00	0.6
23	5:20	1.4	10:15	1.0	5:50	1.6	5:50	1.6	5:20	1.6	11:35	0.5
	15:20	1.4	22:50	0.4	17:35	1.4	17:35	1.4	17:50	1.5	23:35	0.6
24	6:05	1.5	11:10	0.9	6:10	1.6	6:10	1.6	5:45	1.7	*	*
	16:45	1.5	23:30	0.3	18:05	1.5	18:05	1.5	18:20	1.6	12:05	0.3
25	6:30	1.6	11:55	0.7	6:35	1.7	6:35	1.7	6:15	1.8	0:05	0.2
	17:40	1.6	*	*	18:40	1.6	18:40	1.6	19:00	1.6	12:45	0.2
26	6:45	1.7	0:05	0.2	6:45	1.7	6:45	1.7	6:45	1.9	0:40	0.1
	18:30	1.7	12:30	0.6	19:10	1.7	19:10	1.7	19:30	1.7	13:10	0.1
27	7:20	1.7	0:45	0.2	7:10	1.8	7:10	1.8	7:00	1.9	1:05	0.6
	19:05	1.7	13:00	0.5	19:45	1.7	19:45	1.7	20:05	1.7	13:35	0.0
28	7:30	1.8	1:05	0.2	7:45	1.8	7:45	1.8	7:30	1.9	1:35	0.1
	19:20	1.8	13:20	0.4	20:20	1.7	20:20	1.7	20:40	1.7	14:15	0.0
29	7:55	1.8	1:25	0.2	8:10	1.8	8:10	1.8	8:00	1.9	2:10	0.0
	20:00	1.8	13:50	0.3	20:50	1.7	20:50	1.7	21:20	1.7	14:45	0.0
30	8:20	1.8	2:00	0.2	8:30	1.8	8:30	1.8	8:30	1.9	2:45	0.7
	20:30	1.8	14:25	0.2	21:20	1.7	21:20	1.7	22:10	1.7	15:15	0.0
31	8:40	1.8	2:30	0.3	*	*	*	*	9:15	1.8	3:15	0.8
	21:00	1.7	14:50	0.2					23:00	1.6	16:10	0.1

插图2 台湾大隅海峡间黑潮本流夏季概况图



(台湾·冲绳诸岛水路图より)

6. 産業

(1) 沖縄における産業別人口及びその割合は次のようである。

(沖縄大観、沖縄群島政府統計課調)

	昭和19年		昭和26年	
	数	%	数	%
人口総数	590.480		561.924	
有業者数	237.663	100.1	219.399	100
農 業	183.284	77.1	113.722	51.8
水産業	4.764	2.0	4.905	2.2
鉱 業	2.332	1.0	127	0.1
工 業	17.550	7.4	15.482	7.1
商 業	8.399	3.6	14.050	6.4
交通業	5.362	2.3	3.111	1.4
公務自由業	12.436	5.2	11.805	5.4
家事使用人	3.469	1.4	1.170	0.5
その他	67	0	55.027	25.7
無業者数	352.817	-	342.525	-
備 考	1. 昭和26年のその他中に軍関係 42.648を含む 2. 有無業割合は 昭和19年 有40.2 無59.8 昭和26年 有39.1 無60.9			

(2) 農業

前表のように総人員の77%強であるが、耕地面積は昭和15年の統計によれば水田4.705町歩、畑37.663町歩計42.368町歩となつている。

主要作物は甘藷、甘蔗、大豆、蔬菜、水稻で昭和15年の生産高は米約11万石、甘藷約775百万斤(約46.5万吨)甘蔗約138万担となつており米は不足し甘藷が農家主食と家畜飼料の大分を占め戦前毎年約20万名の米を台湾より移入していた。(沖繩大観より)

(注:兵要地誌資料によれば昭和19年移入所要量は米麦12万石となつている)

(3) 畜産

古くより畜産業発達し豚及び山羊の飼育数では戦前常に日本全国で第1位を占めていた。昭和12年の統計によれば次のようである。(沖繩大観より)

	日本全土(除沖繩県)	沖繩県	備考
牛	1,825,760頭	30,463頭	終戦直後の沖繩残存見込は本島(離島)で牛50(400)、馬700(530)、豚850(1,200)、山羊1,500(1,300)である
馬	1,541,086	40,000	
山羊	293,302	145,363	
豚	1,088,187	149,004	

(4) 林業

沖繩の林野面積は約20万ヘクタール(戦後調査)で、その総蓄積は約14万石と推計されていた。需要は戦前年間約50万石で用材の大半は日本内地から移入していた。

今次戦争において日本軍の需要と戦火による焼失等により林産資源において戦前の14%すなわち7.977町歩(19.943エーカー)1,158,190石を失つた。(沖繩大観より)

(5) 水産業

沖繩漁民は海に対して極めて勇敢であり優秀な漁撈技術を有しているが産業としては一般に不振であつた。昭和14年の漁獲高(魚類)は約3000屯である。(沖繩大観より)

7. その他

(1) 衛生

戦前沖繩本島においては腸チフス、バラチフス、チフテリア、アメーバ赤痢等の伝染病があり、デング熱も周期的に猛威をふるつた。マラリアは戦前沖繩本島には僅少で、宮古、八重山両列島の一地方病に過ぎなかつたが戦後本島にも患者が発生している。

瘧病患者も相当あるようであるがその数は明らかでない。国頭郡の屋我地島には瘧療養所がある。

(2) はぶ

沖縄におけるはぶは大体10種あつて、そのうちで特に恐るべきは5種で毎年7・8・9月に主として北部地区に咬傷患者が最も多い。

はぶ咬傷統計(沖縄大観より)

	咬傷患者	死亡	致命率	備考
昭10年(1935年)	102	7	6.86	1戦後咬傷患者が激増しているのは北部で森林に入るものが増したため。
11年(1936年)	93	7	7.53	
12年(1937年)	91	8	8.79	
22年(1947年)	263	7	2.66	2致命率の低いのははぶ血清の配分の良好なため。
23年(1948年)	439	5	1.13	
24年(1949年)	586	8	1.36	
25年(1950年)	557	3	0.53	

第2節 歴史及び風俗

琉球人

琉球人が日本人と同一祖先から出たことは、今日では殆んど疑問のない事実となつていて、言語の上からも、体質の上からもまた土俗の比較研究からも確められつつある。

琉球は長い間独立の国家を形成し、しかも14世紀以来明治4年(1871年)の廃藩置県に至るまで明朝と朝貢関係があり、14世紀に薩摩の付属国になつてもその政策上からも民族意識があいまいであつた。

神話によれば太古アマミキユ、シネリキユの二柱が降臨して島々を造つたという、アマミキユは九州地方にいた海人部(あまみ)種族で島々を南下して奄美大島、沖縄島、先島諸島に達したと解釈されている。中国との交通も頻繁であつたので中国人(主として福建人)の帰化したもの、あるいは朝鮮人の帰化したものもある。日本本土よりの移動は平安朝の末期頃から絶えずあつたようである。(国民大百科辞典)

沖縄の歴史

(1) 沖縄略史(日本歴史事典=和歌森太郎篇 昭和27年及び沖縄大観りよ)

沖縄にはアマミキヨ・シネリキヨの神を祖とする開闢説があり、王朝の始めに天孫25世という時代があつたと伝えられている。